



エコ・ファーストの約束 (更新書)

～環境先進企業としての地球環境保全の取り組み～

平成29年10月23日

環境大臣 中川 雅治 殿

全日本空輸株式会社
代表取締役社長

平子 裕 志

全日本空輸株式会社は、安全を経営の基盤とする航空運送事業者としての社会的責任を踏まえ、世界の「環境リーディング・エアライン」として、持続可能な社会の実現に積極的に貢献するため、以下の取組をすすめています。

1 新機材の導入促進などにより、地球温暖化の防止に向けて積極的に取り組みます。

- ◆ ボーイング787型機、次世代リージョナルジェットMRJなど次世代機材を、世界で最初に導入し、活用するなど、環境保全新技術を世界に先駆けて取り入れており、今後も継続・促進します。
- ◆ 世界の航空業界で初めて設定したCO₂「総排出量目標」をより積極的に更新し、2017年度～2020年度の国内線CO₂総排出量を年平均440万トン以内に抑制します。
- ◆ 国内線・国際線の有償輸送トンキロあたりCO₂排出量を、2020年度において2005年度対比で20%削減します。
- ◆ 「省エネ法」を順守し、全事業所合計で、原単位あたり年1%のエネルギーを削減します。
- ◆ 2020年度からのバイオジェット燃料の使用開始を目指します。
- ◆ 環境負荷の低い運航・飛行方式や地上車両・施設を積極的に導入します。

2 資源循環型社会の実現に貢献します。

- ◆ ANAグループの機内・空港内や事業所で発生する廃棄物の3Rを推進します。

主な取り組み

- 国際線機内で発生する廃棄物(ビン・缶・ペットボトル)の分別化、雑誌類のクローズド・リサイクル
- 一部の制服のケミカルリサイクルによるゼロCO₂化推進
- 再生プラスチックを原料とした機内用品(国際線 飲料カップやサラダボールカップなど)の導入

3 「人と地球を考える」をテーマに、「地球環境を大切に作る心の輪」を多くの人に広げます。

- ◆ 2004年、産官一体型プロジェクト「チーム美らサンゴ(サンゴ再生プロジェクト)」として環境省、沖縄県、恩納村など行政の後援を得て結成し、地域社会での環境社会貢献活動を積極的に支援します。
- ◆ 東日本大震災で被害にあった宮城県南三陸町の「ANAこころの森」、名取市の「海岸林再生プロジェクト」への支援活動に取り組みます。
- ◆ 世界初のUNESCO公式サポーターとして「教育・科学・文化」プログラムをサポートし、世界遺産の保全に「お客様とともに地球環境を考える」取り組みを推進します。

全日本空輸株式会社は、上記取組の進捗状況と結果について、環境省へ報告するとともに、アニュアルレポートやホームページなどで定期的に公表します。

